

平成26年度学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立工業高等学校

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
<p>1 県工スタンダードの実践を推進し、わかりやすい授業に努め、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。</p>	<p>① 県工スタンダードを活用し、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことにより、わかりやすい授業の実践につなげる。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>生徒の授業アンケートにより、わかりやすい授業であり、授業に満足していると回答する生徒の割合で判断する。 A 85%以上 B 80%～85%未満 C 75%～80%未満 D 75%未満</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(B) 生徒による授業評価アンケート(前期)において、「先生の授業はわかりやすい」84.9%、「板書(体育・実習は指示)は整理されわかりやすい」83.1%であり、二つの項目の平均値は84.0%であった(前年度同時期の調査と同じ数値)。 後期は評価アンケートを元に授業改善を図り、85%以上を目指す。</p>
	<p>② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。</p>	<p>教務課 各教科</p>	<p>学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった</p>	<p>(教務課・各教科) 中間評価(D) 生徒による授業評価アンケート(前期)において、「学校での補習や家庭において1日1時間以上の学習を行っている」において、「ほぼ毎日」6.6%、「週2～3日」11.6%、「週1日」22.7%、「ほとんど行っていない」59.1%であった。 自宅学習の必要性を生徒に理解させるとともに、宿題等の課題を工夫し自宅学習を促進する。</p>
	<p>③ 教師個人及び各教科にて積極的に授業改善に取り組み、全体的な授業力の向上を目指す。</p>	<p>教務課 全教員</p>	<p>1年間の研究協議会や校内研修に参加した回数で判断する。 A 3回以上 B 2回 C 1回 D できなかった</p>	<p>(教務課・全教員) 最終評価にて実施 暫定(A) 平均参加回数：1.5回(前年度同時期の参観回数：1.6回) 参観回数に比べ、研究協議会等の参加回数は若干低い値となった。後期における研究授業や公開授業の機会を捉え、研究協議会等への参加促進を図る。</p>
	<p>④ 授業の情報化及びわかりやすい授業に向けて、ICT機器の活用を促進する。</p>	<p>学習情報課</p>	<p>教師一人当たりの1年間の利用数で判断する。 A 5回以上 B 3回～5回未満 C 1回～3回未満 D 0回</p>	<p>(学習情報課) 中間評価(A) 4月～6月のプロジェクトの使用授業コマ数は1120回で、教師一人当たりの平均は11.0回であった。 年度当初から各教科にプロジェクトの利用促進を促した結果が数値に表れたものと思われる。 今後もICT利用に関する研修会を実施することにより、さらなる利用促進が期待される。</p>
<p>2 校訓を掲げた学校づくりを進め、規範意識やマナーの向上、責任感の醸成を図り、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。</p>	<p>① 校訓を掲げることにより、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識を高め、共通の理念のもと、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的生活習慣を身につけた生徒を育成する。</p>	<p>生徒指導課 各学年</p>	<p>生徒のアンケートにより、挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満 皆出席者の割合で判断する。 A 55%以上 B 50%～55%未満 C 45%～50%未満 D 45%未満</p>	<p>(生徒指導課) 中間評価(A) 積極的に取り組もうとしている生徒の割合は93%と確実に成果は上がっている。実際の様子からも挨拶は良くなってきている。しかし県工生として県下に誇れる挨拶とはまだ言えない。 生徒会、部活動顧問と連携を取り、挨拶の質を上げる取り組みを実施する。</p>
	<p>周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。</p>	<p>総務課</p>	<p>生徒アンケートで、周辺美化活動(除雪活動を含)や地域との交流活動に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満</p>	<p>(総務課) 最終評価にて実施</p>
	<p>② 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。</p>	<p>生徒指導課 学年団</p>	<p>違反指導件数の減少の割合を目標とする。 A 前年比10%以上 B 前年比5%～10%未満 C 前年比0%～5%未満 D 前年比増</p>	<p>(生徒指導課) 中間評価(A) 自転車の違反件数は、7月末現在で43件(昨年度85件)と49%減少しており、指導の成果は上がっている。しかし、自転車事故の報告件数が11件と急増しており、違反件数の減少が自転車事故の減少に結びついていない点が課題である。 今後、交通ルールの遵守とともに事故に遭わないための安全運転の意識を持たせる指導を目指す。</p>

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策
3 就職、進学ともに確かな進路実現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1志望での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満	(進路指導課) 最終評価にて実施 暫定(A) 1社目受験で内定した割合:91.4% 就職試験受験者186名中、1社目受験での内定者170名
	② 専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7科	課題研究に対する3年生の満足度で判断する。 A 90%以上 B 85%~90%未満 C 80%~85%未満 D 80%未満	(工業7科) 最終評価にて実施
	③ 生徒の将来に役立つ資格取得に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 A 60名以上 B 50名~60名未満 C 40名~50名未満 D 40名未満	(教務課) 最終評価にて実施 前期の認定者数は23名(ジュニアマイスターゴールド8名、ジュニアマイスターシルバー15名)であった。後期に技能士等ポイントの高い資格試験が多い。そのため、後期の認定者数を含めて最終評価する。
	④ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。 A 全国大会でベスト16以上の成績であった。 B 全国大会に出場した。 C ブロック大会で入賞した。 D 県大会で入賞した。 [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した。 D 全国大会に出場した 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 最終評価にて実施 暫定(C) 高校生ものづくりコンテスト(化学分析部門)北信越大会 2位 全国IT簿記選手権大会 中部ブロック大会 団体の部 優秀校 第6回全国理美容学生技術大会 全国順位未定 [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会](工業7科) 最終評価にて実施 暫定(A) 全国ソーラーラジコンカーコンテスト2014 in 白山 優勝 高校生ファッションデザインコンテスト2014 2位 各種コンテスト、コンクール(工業7科) 最終評価にて実施 暫定(C) 石川の技能まつり旋盤コンテスト 3位 石川の現代工芸展 受賞 石川ファッションフェスタ2014 2位 愛鳥週間ポスター、環境月間ポスター 全国順位未定
4 人間力を高めるための部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育てる。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の向上に努める。	生徒会課	各学年の部活動の加入率で判断する。 A 95%以上 B 90%~95%未満 C 85%~90%未満 D 85%未満 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	(生徒会課)中間評価(A) 全体で95.0%が部・同好会に所属している(重複含む)。 1年生女子の加入率が高くなったことにより、全体的に高水準となった。 今後も継続して、高い加入率を維持できるよう、意識喚起等を図る。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	生徒のアンケートにより、行事に満足したと回答する生徒の割合で判断する。 A 90%以上 B 80%~90%未満 C 70%~80%未満 D 70%未満	(生徒会課)中間評価(A) 概ね学校行事に参加する生徒の満足度は高い(やや満足を含め93%の生徒が満足)。 今後も行事の内容を吟味し、生徒がより積極的に参加し、満足度が上がるよう工夫を重ねる。
	③ 歯科保健指導を通じ、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 A 30%以上 B 25%~30%未満 C 20%~25%未満 D 20%未満	(保健課) 最終評価にて実施 暫定(D) 8月末までの歯科受診率は11.5%であった(昨年同期よりも若干低下)。 今後、昨年同様ホーム担任や部活動顧問の協力を得ながら、未受診者への個別指導を行い、受診率の向上を目指す。